

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田(1階)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成28年12月28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouyuu_detail_2016_022_kami=true&jiyosvoCd=2297200558-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年2回の「春の家族会」「敬老家族会」唯一全家族が交流を図れる場なので継続している。地域との交流を図るようにしている(神田公民館にてお達者クラブへの参加、夏祭りや秋祭り、他のイベントなど積極的に参加している。)ご利用者様がいつまでも安全に安心して生活ができるようお手伝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員が仲睦まじく、尊敬の念をもちつつも心のふれあう関係にあり、昨年の法人大運動会では「ベストパートナー賞」に選ばれています。発した言葉、ちょっとした変化も細かく記して暮らしぶりが手にとるようにわかるよう、A4版1枚にびっしりと職員がしたため毎月家族に届けていることも、関係構築につながる一例です。担当制を設けておらず、職員は毎回異なる利用者家族に手紙を書くことで、全ての利用者を注意深く観察することになり、またその積み重ねは「お体にお気をつけください」と、家族を気遣う一文に結ばれていることを視認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を継続し笑顔で対応している。	事業所目標と個人目標を連動させ、毎月のミーティングでも話材とし、実現へとつなげています。利用者や職員双方で相手を思いやる、仲の良い様子や、丁寧に感謝の気持ちを現す面会の家族の姿から実践が見てとれます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的には近所の方とあいさつを交わしている。地域の行事や催し物などにご利用者様と出かけたり、施設のイベントに近所の方が参加している。	地域行事に向かうよう努め、中学校を会場とした輪投げ大会や公民館のふれあい広場に参加しています。恒例となった事業所の夏祭りは、本年は中学生ボランティアも応援者となり、また新しいメニュー「電動車いすの体験」も加え、100名余りで賑わいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と一緒に散歩や買い物に出かけ、地域住民や社会交流を図ることで理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、偶数月にて運営推進会議を継続、生活状況や認知度・身体的な状況や問題点などを報告している。出席している人達からのアドバイスを頂いている。	「地域に役立つよう、介護の相談も受けられるといった看板を立てたらどうか？」という意見も果敢に挙がるほど、メンバーには積極的に参画してもらっています。また民生委員からは「神田祭」や「春日町・江西まつり」等地域情報も届いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時にサービスの取り組み方など伝えている。また、国保連関係、行政上不明なことなど連絡相談をしますがあまり密には取り組めていない。	夜間のみセンサーマットを使用する利用者について、「身体拘束に当たるのか」と市の実地指導で意見を仰ぐ等、不明点は行政の助言を得て明らかにしていくよう努めています。市役所職員には運営推進会議に同席してもらえ、事業所も集団指導をはじめ研修会に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定にうたっており、職員全員が身体拘束をしない方針である。毎年身体拘束について、リーダーが社内研修に出席、それを内部研修でおとし、理解をしている。	安全面の配慮からユニット入口は施錠しています。身体拘束排除に係る法人研修にはリーダーが出席後、所内研修として全職員で共有化させ、「自分に置き換えたら、家族だったら。その言葉遣いはどうか」職員に考えてもらうことで注意喚起しています。	「(ユニット)施錠を恒常化させない」という意識がもてるよう、定期的に議題とするとお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーが社内研修に出席、内部研修でおとしている。職員一人ひとりが言動や身体的、その他の虐待防止に努めている。(身体的な部分では入浴時、起床・就寝の着替え時に確認をしている。)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダーが社内研修に出席しそれを内部研修でおとしている。研修で学んでも難しくなかなか理解を深めるまでにはいっていない。全ての研修についてリーダーが理解をし内部研修でみんながわかるように説明をしている。リーダーの自己評価式となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み上げ不明な点があれば十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の中の懇談会にて一人ひとり意見や要望を伺いすぐに行っている。それ以外に電話や面会時などでも要望があればできる限り応えるようにしている。	年2回の家族会にはほぼ全家族が顔を合わせています。「体重の増加が気になる」との意見には盛り付けを工夫するなどして僅かですが「体重が減る」という成果例もあり、気軽に言ってもらえる関係を心掛けていることが向上につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修や朝礼、その他意見や意向があれば随時聞き入れ可能な限り反映できるようにしている。	「訪問理容」「オムツの発注」「備品の注文」「(外出の)企画書」には担当者を設け、担当を持つことで職員が責任感を持って運営に関わることが出ています。毎月の定例ミーティングの他にも管理者が招集をかけて話し合うこともあり、臨機応変に課題解決がおこなわれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。また、キャリアパス制度を行っている。職員の入れ替わりが多い為働きがいのある職場環境とは言えないが、やりがいのある環境づくりに努力している。年2回の親睦会でコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や在宅協・教育が依頼した外部研修・初任者研修などの参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会に参加したり、市や地域包括など開催している講習・研修などに参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居して頂く為に事前にご本人に会い話をしたり寄り添うなどコミュニケーションを図りながらアセスメントを取りサービスにつなげている。馴染みの関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にあセスメントを取り、困っていることや意向など伺いサービスにつなげている。常に相談が受けられる体制を保ち、状態・状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時本人や家族に今何が必要なのかを伺う。ご本人に関しては、応えが返ってこない場合が多い為、会話を楽しみながらヒントとなるものを見つけ出し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯たたみ、調理や後片付け、また、テレビや本を観て歌ったり笑ったり職員と一緒に過ごしている。外出や外食などの楽しみも生活の一貫として共に楽しみながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られるようオープンにしたり、また、いつでも家族と外出・外食ができるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人との外出や外食、施設での面会も自由に行い交流を崩さないようにしている。入居者の知人の方が賛美歌やコーラスなど披露してくれる。	校長だった人には慕う生徒が今でも通ってきており、面会に留まらず20名程のコーラスグループを編成してボランティア訪問くださり、事業所全体に関わってもらえています。化粧を現在でも続ける人は他の利用者に施してあげてもいい、職員が双方の意向に添うよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルはあるが、職員が間に入ることで大きなトラブルもなく過ごしている。その中でも、職員がパイプ役になり毎日穏やかに生活できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度のレベルが落ちてきている為それぞれの思いや希望を伺っても難しい人がいるので、テレビや雑誌、広告などを見てヒントを得たり、普段の会話から昔の話をするなどして思いを引き出すよう努めている。(本人が食べたい物や飲みたい物など選んで頂き提供している。)	午後の少し余裕ができる時間帯に会話をもつよう努め、捉えた想いは口頭伝達のほか「連絡ノート」に記載して共有しています。帰宅願望の強いケースも職員間で協議し、食器洗いをしてもらうことで軽減しています。調査訪問時にも昼食後に役割と感じて勤しむ様子を視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全担当のケアマネがいれば情報をもらい利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺ったりまた、ご本人・ご家族からの聞き取りもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握している。また、病院や施設からの入居に関しては家族にも来て頂きその職員と家族からの情報をもとに把握、他ご入居者様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりがご入居者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるよう職場会議で話し合い結論を出している。	法人専用のフェイスシートに利用者本人のADLや心身に関わる事項、趣味嗜好に至るまで細かく残してアセスメントをおこない、初回のケアプランを作成しています。見直しは半年毎ですが、状態変化があれば速やかに変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食量や排泄など毎日様子観察をし気付いた点があれば随時報告、随時話し合い個別記録やスタッフ連絡ノートなどに記入をし検討している。(必要に応じてマーカーしている。)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能の低下や認知症状が悪化したことで個々に何が出来て何が出来なくなっているのかの問題点や課題をあげ、職場会議にて検討し職員一人ひとりが柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医なのか施設に月2回往診に来ている先生にするかを家族に聞いている。また、提携している病院も近くにありそちらとの連携も図っている旨も伝えている。24時間対応して下さるので、ちょっとした変化や緊急時は先生に連絡を取り、指示を仰いだり往診に来てくれるなど対応に努めている。	24時間オンコールで月2回訪問診療くださる、心強い協力医師に恵まれ、全員が変更しています。精神科などの専門医は家族が通院介助していますが、無理となれば法人内の他事業所から応援があります。服薬についても3名の異なる職員がチェックして念が入っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になることがあれば看護師に相談をし、家族や医師にも伝え早期発見に努め適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。退院時において担当者会議を行っている。(担当者会議について事前に病院と家族との了解を得て行っている。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを(医療的な処置が必要な場合を除き)説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようカンファレンスを開いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社の規定により、年2回の防災訓練を行っているが現在は2か月に1回防災非難訓練を行っている。総合訓練では、民生委員の参加と協力を得ている。また、教育で行う救命救急の研修にも職員の参加を促している。	年2回実施の内1回は消防署の立ち会いのうえの総合訓練と定め、自治会副会長や民生委員も日程を合わせてくれています。また併設事業所と合同の避難訓練は隔月と、こまめに繰り返すことで有事の協力体制を堅固にさせています。	基本を繰り返しおこなうことができているので、今後は災害伝言ダイヤルや夜間対応など、メニューを加えていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として人生の先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人ひとりの言動に注意し対応にあたっている。(職員が相手の立場だったらどうか考えるようにしている。)	自立の利用者は何気に立ち上がってトイレに向かいますが、不必要に「トイレですか?」と確認したりせず、「黙って見守りつつ声かけは小声で」といった細かな点にまで共通認識させて、誇りやプライバシーを損ねないよう取組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増減を持って対応している。なにげない会話の中からでも希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、また、性格や年齢も違うので決められたスケジュールに縛られず個々のペースを大事にしている。また、入居者様の希望や訴えがあればできるだけ沿えるよう努めている。職員のペースになることも多々あるので統一を図るため職場会議で話をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり訪問理美容に来てもらいカットやヘアカラーなどの支援をしている。(洋服選びと髪型については本人の意思・意向によって決めている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを会話の中から聞き取りイベント等で提供している。おしぼりを巻いたり食器やお盆を拭いたりしている。	食材は業者から届きますが、調理は職員がおこない、特に味付けには苦心しており、訪問当日昼食の「くりかぼちの煮つけ」にはすりごまがかかりコクを出していました。「少しでもおいしく…」の想いは食器にも現れ、全て陶器で温もりがあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量を記録し特別な状態があれば主治医または看護師に連絡をし、指示を仰いでいる。それ以外では、メイバランスなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対しても必ず最後に口腔内の確認を取っている。入歯の方も確認を取り洗浄液につけるなど清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し確認を取りながらトイレの声掛け誘導をし、失敗がないよう早めの対応にあたっている。できるだけ日中は綿パンにパットまたは綿パンのみの対応に心掛けている。	高齢による身体低下は否めないものの現在オムツはゼロで、また声かけを適切におこなうことで失禁がなくなった利用者は日中、布パンツで過ごすことができている。また昨年度本件に係る目標を掲げた2階ユニットでは危なげなく達成を果たしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など赤ペンで記録している。なるべくスムーズな排泄が行えるよう水分を摂って頂くよう声掛けしている。便秘が続くようであれば主治医に連絡または往診時に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し入浴の声掛けをしたり、本人の希望に応じるなど対応にあたっている。入浴剤を入れるなどリラクセスして湯船につかれるようにしている。	浴室内に暖房がついているため冬季はヒートショックを鑑みて着脱をなかでおこなうこともあります。浴剤も底が見えなくなるほど濃くないと気遣い、水虫には足拭きマットを替える等諸所安全面への配慮が伝わります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子ご利用者様に関しては足のむくみも見られる為午前午後とも1時間程居室にて横になって頂く。また、それ以外の人でも屋間に少し横になりたいと訴えがあれば居室にて昼夜逆転にならない程度に横になって頂く。就寝の際は本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば往診の先生に連絡・相談をし指示を仰いでいる。薬局にも相談をかけている。状況をご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設や地域のイベントでの屋台(やきそば・フランクフルト・ヨーヨーなどなど)で楽しみ気分転換を図っている。気候のいい日には散歩やドライブなどの外出をしている。役割として、食器拭き・洗濯物たたみ・おしぼり巻きなどの役割ができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様の希望や職員の希望を聞くなどして企画を立て出かけている。	天気がよければ事業所を周遊する程度の散歩を心掛けています。以前は月例だったドライブ外出も利用者のADL低下に伴い減りましたが、ユニット単位で初詣、花見、外食等年4回ほどは出かけることができおり、特にとろろの外食は皆で楽しみにしています。	全員でのドライブ外出は難しくなっていますので、個別外出の機会が増えていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様によってお金を渡しご自分で支払いをしてもらっている。おつりがあればもらうよう促しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを作り飾ったり季節の花を植えたりして癒し空間を作っている。ご利用者様が居心地よく過ごせるよう、常に温度調節湿度節を図るよう心掛けている。	畳スペースやソファが配されて居場所づくりへの取組みもみられ、エアコンが3台、空気清浄加湿器が4台と室温調整に気を配っていることも覗えます。また1階には塗り絵が張り巡らされ、2階は毎月制作の利用者合作作品や外出や行事の写真が沢山掲示されて、双方賑やかです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意して頂くように伝え、普段の就寝の状態を崩さないようにしている。	予め備わったクローゼットの収納力が高いため、全体に大きな持ち込みはありませんが、和筆筒を置いている人もいます。ベッドを使用せず布団の居室にはすのこやマットレスが敷かれ、畳導入での滑り=転倒に留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、自分で目的の場所に行かれるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り・環境作りに心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田(2階)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成28年12月28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosvoCd=2297200558-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年2回の「春の家族会」「敬老家族会」唯一全家族が交流を図れる場なので継続している。地域との交流を図るようにしている(神田公民館にてお達者クラブへの参加、夏祭りや秋祭り、他のイベントなど積極的に参加している。)ご利用者様がいつまでも安全に安心して生活ができるようお手伝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員が仲睦まじく、尊敬の念をもちつつも心のふれあう関係にあり、昨年の法人大運動会では「ベストパートナー賞」に選ばれています。発した言葉、ちょっとした変化も細かく記して暮らしぶりが手にとるようにわかるよう、A4版1枚にびっしりと職員がしたため毎月家族に届けていることも、関係構築につながる一例です。担当制を設けておらず、職員は毎回異なる利用者家族に手紙を書くことで、全ての利用者を注意深く観察することになり、またその積み重ねは「お体にお気をつけください」と、家族を気遣う一文に結ばれていることを視認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を継続し笑顔で対応している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的には近所の方とあいさつを交わしている。地域の行事や催し物などにご利用者様と出かけたり、施設のイベントに近所の方が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と一緒に散歩や買い物、ゴミ捨てに出かけ、地域住民や社会交流を図ることで理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、偶数月にて運営推進会議を継続、生活状況や認知度・身体的な状況や問題点などを報告している。出席している人達からのアドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時にサービスの取り組み方など伝えている。また、国保連関係、行政上不明なことなど連絡相談をしますがあまり密には取り組めていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定にうたっており、職員全員が身体拘束をしない方針である。毎年身体拘束について、リーダーが社内研修に出席、それを内部研修でおとし、理解をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーが社内研修に出席、内部研修でおとしている。職員一人ひとりが言動や身体的、その他の虐待防止に努めている。(身体的な部分では入浴時、起床・就寝の着替え時に確認をしている。)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダーが社内研修に出席しそれを内部研修でおとしている。研修で学んでも難しくなかなか理解を深めるまでにはいっていない。全ての研修についてリーダーが理解をし内部研修でみんながわかるように説明をしている。リーダーの自己評価式となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み上げ不明な点があれば十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の中の懇談会にて一人ひとり意見や要望を伺いすぐに行っている。それ以外に電話や面会時などでも要望があればできる限り応えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修や朝礼、その他意見や意向があれば随時聞き入れ可能な限り反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。また、キャリアパス制度を行っている。職員の入れ替わりが多い為働きがいのある職場環境とは言えないが、やりがいのある環境づくりに努力している。年2回の親睦会でコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や在宅協・教育が依頼した外部研修・初任者研修などの参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会に参加したり、市や地域包括など開催している講習・研修などに参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居して頂く為に事前にご本人に会い話をしたり寄り添うなどコミュニケーションを図りながらアセスメントを取りサービスにつなげている。馴染みの関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にあセスメントを取り、困っていることや意向など伺いサービスにつなげている。常に相談が受けられる体制を保ち、状態・状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時本人や家族に今何が必要なのかを伺う。ご本人に関しては、応えが返ってこない場合が多い為、会話を楽しみながらヒントとなるものを見つけ出し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯たたみ、調理や後片付け、また、テレビや本を観て歌ったり笑ったり、トランプやカルタを職員や他のご利用者様と一緒にやり、過ごしている。外出や外食などの楽しみも生活の一貫として共に楽しみながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られるようオープンにしたり、また、いつでも家族と外出・外食ができるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人との外出や外食、施設での面会も自由に行い交流を崩さないようにしている。入居者の知人の方が賛美歌やコーラスなど披露してくれる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルはあるが、職員が間に入ることで大きなトラブルもなく過ごしている。その中でも、職員がパイプ役になり毎日穏やかに生活できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度のレベルが落ちてきている為それぞれの思いや希望を伺っても難しい人がいるので、テレビや雑誌、広告などを見てヒントを得たり、普段の会話から昔の話をするなどして思いを引き出すよう努めている。(本人が食べたい物や飲みたい物など選んで頂き提供している。)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全担当のケアマネがいれば情報をもらい利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺ったりまた、ご本人・ご家族からの聞き取りもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握している。また、病院や施設からの入居に関しては家族にも来て頂きその職員と家族からの情報をもとに把握、他ご入居者様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりがご入居者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるよう職場会議で話し合い結論を出している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量や排泄など毎日様子観察をし気付いた点があれば随時報告、随時話し合い個別記録やスタッフ連絡ノートなどに記入をし検討している。(必要に応じてマーカーしている。)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能の低下や認知症状が悪化したことで個々に何が出来て何が出来なくなっているのかの問題点や課題をあげ、職場会議にて検討し職員一人ひとりが柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医なのか施設に月2回往診に来ている先生にするかを家族に聞いている。また、提携している病院も近くにありそちらとの連携も図っている旨も伝えている。24時間対応して下さるので、ちょっとした変化や緊急時は先生に連絡を取り、指示を仰いだり往診に来てくれるなど対応に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になることがあれば看護師に相談をし、家族や医師にも伝え早期発見に努め適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。退院時において担当者会議を行っている。(担当者会議について事前に病院と家族との了解を得て行っている。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを(医療的な処置が必要な場合を除き)説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようにカンファレンスを開いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社の規定により、年2回の防災訓練を行っているが現在は2か月に1回防災非難訓練を行っている。総合訓練では、民生委員の参加と協力を得ている。また、教育で行う救命救急の研修にも職員の参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として人生の先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人ひとりの言動に注意し対応にあたっている。(職員が相手の立場だったらどうか考えるようにしている。)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増減を持って対応している。なにげない会話の中からでも希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、また、性格や年齢も違うので決められたスケジュールに縛られず個々のペースを大事にしている。また、入居者様の希望や訴えがあればできるだけ沿えるよう努めている。職員のペースになることも多々あるので統一を図るため職場会議で話をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり訪問理美容に来てもらいカットやヘアカラーなどの支援をしている。(洋服選びと髪型については本人の意思・意向によって決めている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを会話の中から聞き取りイベント等で提供している。ご利用者様によっては、職員の見守りの元、野菜を切ったり炒めたり、おしぼりを巻いたり食器やお盆を拭いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量を記録し特別な状態があれば主治医または看護師に連絡をし、指示を仰いでいる。それ以外では、メイバランスなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対しても必ず最後に口腔内の確認を取っている。入歯の方も確認を取り洗浄液につけるなど清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し確認を取りながらトイレの声掛け誘導をし、失敗がないよう早めの対応にあたっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など赤ペンで記録している。なるべくスムーズな排泄が行えるよう水分を摂って頂くよう声掛けしている。便秘が続くようであれば主治医に連絡または往診時に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し入浴の声掛けをしたり、本人の希望に応じるなど対応にあたっている。入浴剤を入れるなどリラックスして湯船につかれるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子ご利用者様に関しては足のむくみ、同じ体勢でいるのは辛いということで午後1時間程居室にて横になって頂く。また、それ以外の人でも昼間に少し横になりたいと訴えがあれば居室にて昼夜逆転にならない程度に横になって頂く。就寝の際は本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば往診の先生に連絡・相談をし指示を仰いでいる。薬局にも相談をかけている。状況をご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設や地域のイベントでの屋台(やきそば・フランクフルト・ヨーヨーなどなど)で楽しみ気分転換を図っている。気候のいい日には散歩やドライブなどの外出をしている。役割として、食器拭き・洗濯物たたみ・おしぼり巻きなどの役割ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望や職員の希望を聞くなどして企画を立て出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様によってお金を渡しご自分で支払いをしてもらっている。おつりがあればもらうよう促しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを作り飾ったり季節の花を植えたりして癒し空間を作っている。ご利用者様が居心地よく過ごせるよう、常に温度湿度調節を図るよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。また、ご利用者様同士の部屋でお話したい人もいるので、できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意して頂くように伝え、普段の就寝の状態を崩さないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、自分で目的の場所に行かれるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り・環境作りに心掛けている。		